西教寺報

１１２号
仏歴2555（2011・平成23）年
７月31日発行
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
TEL 0823（21）2798
FAX 0823（21）2795
www.saikyoji.net
郵便振替番号
01340−3−29117
宗教法人西教寺

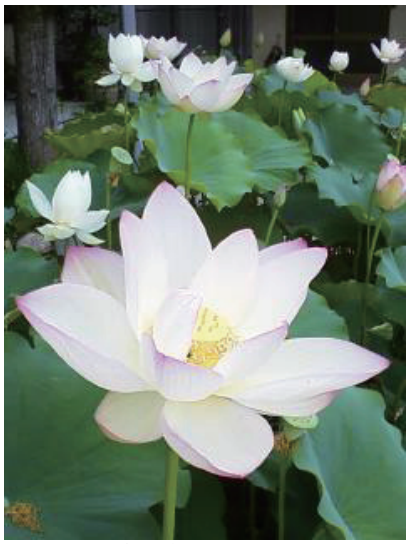
第二の矢

岩崎智寧（新住職）

去る三月十一日、東日本大震災と東電福島第一原発事故が起こりました。まさかの大津波で、死者一万五千六二五人、行方不明者四八二三人（七月二十四日現在）。十二万人が避難を余儀なくされ、今日なお九万人が避難生活のままです。一体誰がこんなことを予想できたでしょう。被災者ならびに有縁の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

宗門では、即日災害対策本部を設置、仙台にボランティアセンターを開設、東北三県に義援金三億円を届けた他、さまざまな支援活動を行っています。また、有志僧侶が、各地で支援ネットを作り支援しています。

西教寺では、三月の法座で本願寺たすけあい募金をお願いし、約十二万円の喜捨を頂戴しました。現在は仮設住宅で使用する生活用品二十品目の支援を行っています。先日昌理町（宮城県）千セットの納入を完了、現在は栖葉町（福島県）八百セットの支援を行っています。左記の品一種類（未使用に限る）でも、お金（一口千円）でも結構です。お力添えいただける方は、お寺までお願いします。



８月白道会講師、尾畑先生のお寺に咲く蓮の花。お浄土の蓮は、一々の花びらから光を出して、お互いに輝かせあっているという。

(1)プラスチック製衣装ケース
(2)やかん
(3)魔法瓶（ステンレスボトル）
(4)フライパン　(5)茶碗×４
(6)お皿【大】×４
(7)お皿【小】×４
(8)お箸×４　(9)お椀×４
(10)急須　(11)湯のみ×４
(12)まな板　(13)包丁
(14)フライ返し　(15)おたま
(16)しゃもじ　(17)菜箸
(18)スプーン×４　(19)スポンジ
(20)食器用洗剤　(21)コップ×４
(22)なべ【大】　(23)なべ【小】

また、婦人会は、子どもらに浴衣を着せてやりたいという現地の声に応え、古着浴衣を募集、七月二十一日、安芸教区を通じて現地へ届けました。少しでも子供たちを喜ばせてやりたいということなのでしょう。どうにもならない現実を受け止められず、しゃがみこんだまま立ち上がれないような時こそ、笑顔って大切なのだと感じます。

原発事故は、レベル７の最悪事態となりました。放射能は今もなお放出されており、住民や生産者はもとより、広島に住む私たちの生活をも脅かしています。

化石燃料の乏しい日本は、原発依存型のエネルギー政策をとってきました。賛否両論ある中、国や電力会社は、原発は「安全」と言い続け、私たちは、その電力を享受してきました。しかし、このたびの事故は、想定外の事態が起こると、人間が制御できない「原発は危険極まりないもの」であることを教えてくれました。これから日本はどう進むべきでしょうか？私たちの幸せのためには、それでも原発が必要なんだという人もいます。

お釈迦さまは、教えを知る人と知らない人の違いを弟子に尋ね、自らこうお答えになります。

教えを知る人も知らないらない人も、第一の矢は防ぐことはできない。しかし、仏の教えを知る人は、第二の矢を防ぐことを知っている（取意）。

（『雑阿含経』17『大正蔵』２−120a）

第一の矢はどうにもならないこと、第二の矢は、変えることのできること。第一の矢を受け止めることのできる心、第二の矢を受けない智慧を学びたいと思います。